

# ちよろよく話

第二六四号

縁かいな

先月は彼岸法要が勤まりましたので各家の御先祖の回向がなされたと思います。家系（血統）も初代から二代三代と進み現在の当主が〇〇代となります。我々は沢山（たくさん）の御先祖を経て人間として誕生し、縁（えん）を頂いて結婚し〇〇代を継承（けいしょう）していく訳ですから誠に希有なる出来ごとです。三代前にさかのぼって考えてみますと、父方の先祖は知って見えると思いますが母方の先祖は知らないと言う方は多いと思います。自分に至る血の流れを知る事は自分を知る上で必要な事です。血は水よりも濃いからです。自分から三代さかのぼるだけで先祖の数は父方八名、母方八名の合計十六人にも成るのです。十六人の血を受けて自分と云う者が誕生してきた訳であり、生命の誕生は多くの御先祖のお蔭（かげ）なのです。自然に命には尊厳（そんげん）が発生するのです。佛の教えの一つに波羅蜜（はらみつ）陰徳（いんとく）を積み重ねなさい」と言う修行があります。陰（かげ）の徳を陰徳（いんとく）売名行為を除く」といいます。授（さず）かった生命（いのち）です。我が身を社会の為に役立てれば陰徳を積んだ事になります。

今年も災害に見舞われました。六月中旬、インド北部を襲ったモンスーンの豪雨で約一万人が死亡し、十万人以上が避難生活を強いられました。七月中旬には中国の四川省で豪雨が降り、四階建てのビルが流されるなど大きな被害に見舞われました。日本でも多くの地域で豪雨の災害を被りました。被災地の方は未曾有（みぞ）のとかが嘗（か）てない事と仰（おぼ）つてみました。自然が暴れる時我々は為す術（すべ）が御座（ござ）いません。我々は微力（みぢりき）です。自然に立ち向かう事は不可能です。自然との良き折り合いが望まれます。経済も不安材料が御座（ござ）います。とうとう日本の借金も一兆円を超えました。一人頭約八百万円です。生活保護を受けてる方が二百万人を超えています。此のままで行けば日本国内で保有する赤字国債が何時紙切れと成ってしまうのか心配される方もお見えに成るのではないかと思います。良きに悪しきに、世界は一時も休む事無く動いているのです。仏教は「縁」によって生まれ、縁によって消滅して行く教えです。それは常住（じょうじゆう）不変なる現象は皆無（みな）という事です。災害といえども大きな流れの一部なのです。食物も時期を過ぎれば腐（く）ってきます。人間も病（おか）に侵（お）かされれば腐（く）って来た証拠（しんこ）です。これを「苦」と表現しています。又、人間は感情の動物といわれています。別れ別離、分かれる、最愛の人ともなれば気が狂いそうでしょう。人や先、我や先です。臨終（りんじゆう）の時は自殺を除けば誰も知る事が出来ないのです。順番の無い死の世界、手厚く心を込めておくり、おくられるように心掛けましょう。法然上人様の御言葉の通りです。命終（いのちのしゆう）の時に臨（のぞ）んで、心顛倒（しんてんたう）せず、心錯乱（しんさくらん）さくらんせず、心失念（しんしつねん）せず」と、この様な心情にはなれないと思えますが心掛ける事は必要でしょう。こんな道詠（みちうた）があります。さまざまに浮世の様は変われども 死する一つは変わらざりけり」と。

生活する上で困った事は御座（ござ）いませんか、当山の檀信徒（だんじゆ）の方々（かたがた）の職業（しごく）は様々（さまざま）です。遠慮（えんりよ）なく御相

談下さい

二十五年十月一日

善壽男善入院油掛地藏尊